単元名	たのしい　いろのせかい

教科書出版社名　（　日本文教出版　）

○ **小学校**（　２　）年　　**教科等**（　図画工作　）

○ **「自ら学ぶ子どもの育成」に向けて、この単元で付けたい力**

・物語から想像をふくらませ、色に対して興味関心をもち混色する楽しさを味わうことができる。
・混ぜる色の比率をかえて自分なりの色をつくることができる。
・創った色にあった名前を考え、友だちに伝えることができる。

○ **学校図書館活用のポイント**

・混色指導の際の導入で、アーノルド・ローベル作の絵本「いろいろへんないろのはじまり」の読み聞かせを行った。この導入によって、「自分もまほうつかいのように自由に混ぜて色をつくってみたい。」と児童が感じ、活動に対する意欲を高めさせることをねらいとした。

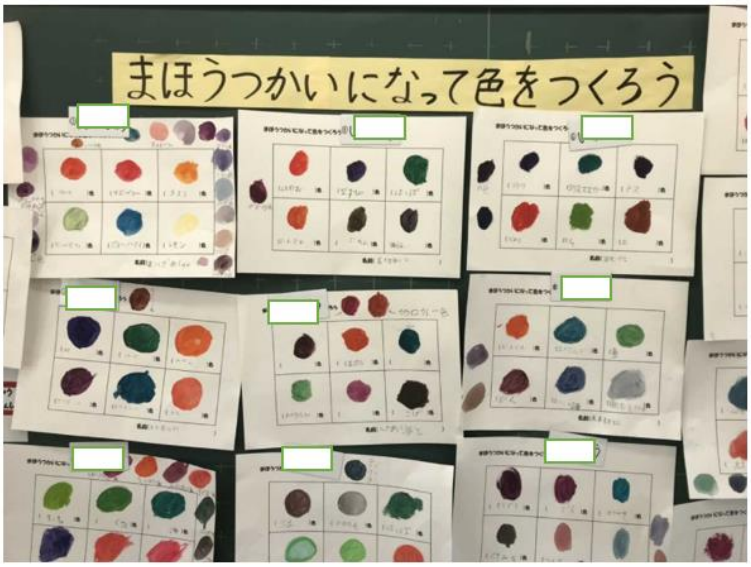
○ **学習の展開（全９時間）**

第１次	・読み聞かせを通して混色について知り、混色の方法を学ぶ。 ・混色をして様々な色をつくり、つくった色に名前をつける。 ・なぜその名前をつけたのか、友だちにわかりやすく説明する。
第２次	・混色を意識しながら、水族館で見た生き物の絵を描く。
第３次	・水族館の生き物の絵を友だちと見せ合い、色の混ぜ方やできた作品について説明する。

【取組みを終えて】

○　本単元における成果と課題

①　成果	・導入で絵本の読み聞かせを行うことで、混色することへの意欲が高まり、楽しんで色づくりができていた。
②　課題	・自分のつくった色に名前をつけるときに、学校図書館の本を見ながら活動をすれば、もっとイメージの広がりがあったと感じる。
③ 児童の感想・ふりかえり	・混色をする際は、「赤色をたくさんと黄色をちょっと混ぜたらこんな色になった。」「この色の名前をもう決めてるんだ。」と楽しみながら活動できているのが印象的だった。子どもたちの作品を全て黒板に貼ることで、赤・青・黄の三原色から色々な色をつくれることがわかり、驚いた様子だった。

○　学校図書館を活用した際に注意した点や学習の中で工夫した点について

・読み聞かせを行った絵本は、まほうつかいが色のない世界に色をつくり、塗っていくという話である。赤色や黄色、青色をつくることからはじまり、最終的に色を混ぜることで、たくさんの色をつくることができ、それぞれのものに合った色を塗ることで、鮮やかな世界になって住民は喜んだという展開になっている。そのため、「みんなもまほうつかいになって色をつくろう！」と主人公になりきって活動をさせるようにし、意欲をもたせるようにした。